



横須賀石炭火力訴訟の今

2020年1月10日

横須賀火力発電所建設を考える会 鈴木陸郎

2014年から全面停止、2017年4月撮影



2018年5月解体着工、2018年6月撮影



2019年5月から準備工事、2019年8月撮影



2019年8月から基礎工事、2019年12月撮影



公害問題から学ぶもの

- 公害対策基本法（1967年）成立。しかし、環境保全と経済成長とを調和する妥協的なもの。
- 公害国会（1970年）。環境保全を経済成長より優先する公害対策基本法に改正。
- 世界初の公害健康被害補償法を制定（1974年）
- 新自由主義経済で公害対策が後退
- グレタ・トゥーンベリー…「あなた方が話すことと言えばお金のことや永遠に続く経済成長というおとぎ話ばかり」

横須賀石炭訴訟とは

- 事業…横須賀火力発電所新1・2号機建設計画
- 訴訟…事業者jeraの環境影響評価書に対し、「変更を要しない」という経済産業大臣が2018年11月30日に発出した「確定通知」
 - この「確定通知」の取り消しを求める訴訟
- 原告…現在計画地近隣の住民や東京湾岸周辺の住民などの住民など48名。男性28名、女性20名、未成年3人・最年少7歳
- 被告…国

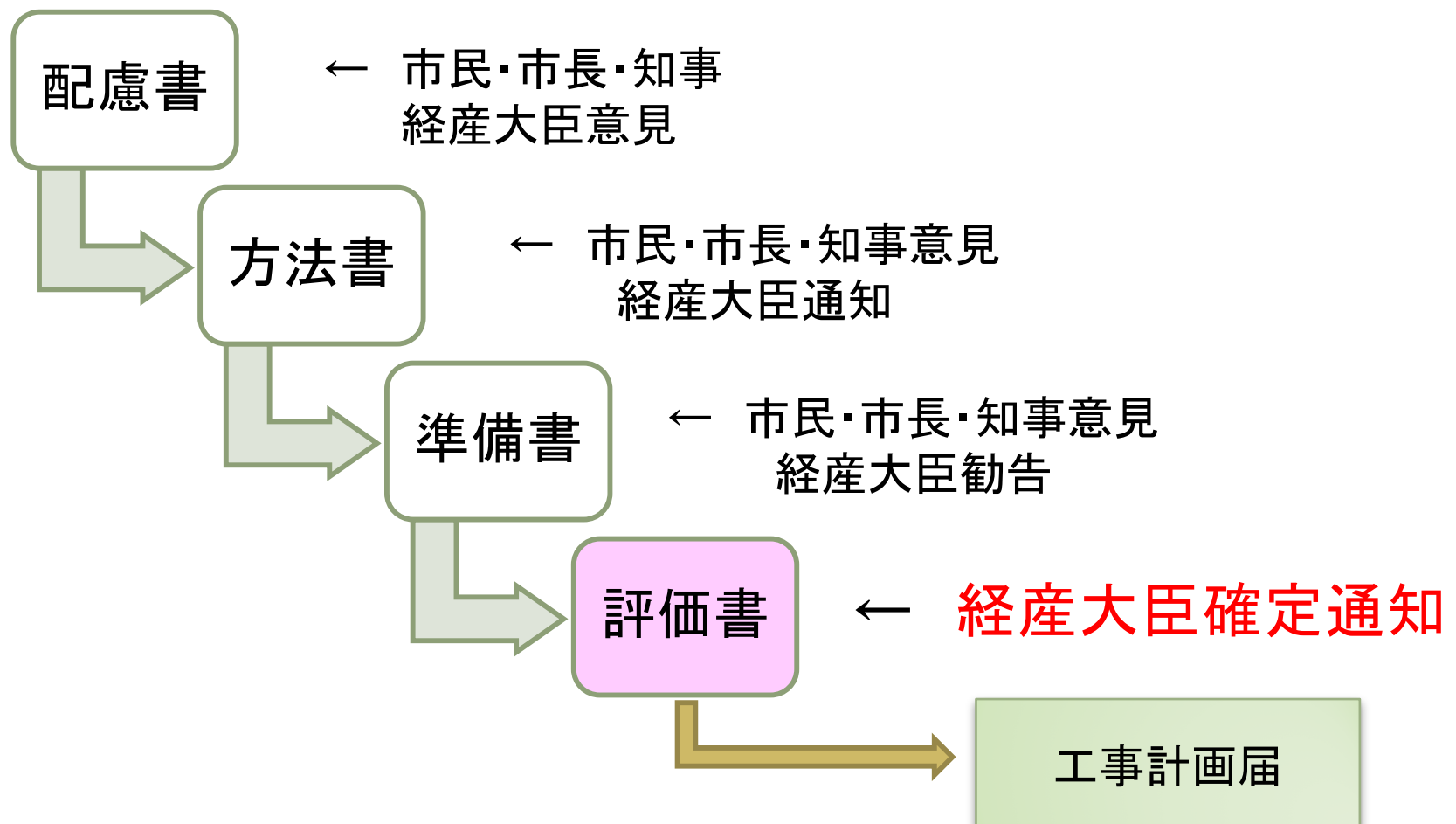
訴訟の理由・違法性

- 「確定通知」は「評価書」の瑕疵を見逃している
- 1) 大気汚染による健康被害のおそれ
 - 温排水による漁業被害のおそれ
- 2) 環境アセスの違法な簡略化
- 3) 石炭火力は大量のCO₂を排出(年726万トン)
 - パリ協定／国の削減目標に反している
 - CO₂の排出量が少ない発電方法(代替案)を検討していない

なぜ「確定通知」の取り消しか？

- 「火力発電所設置許可」がない！！

環境アセス審査の流れの中に「許可」のしくみ



環境アセスと規制の違い

環境影響評価（環境アセス）

- 事業の実施が環境に及ぼす影響について事前に、調査、予測及び評価を行う制度

環境アセス

ベスト追求型

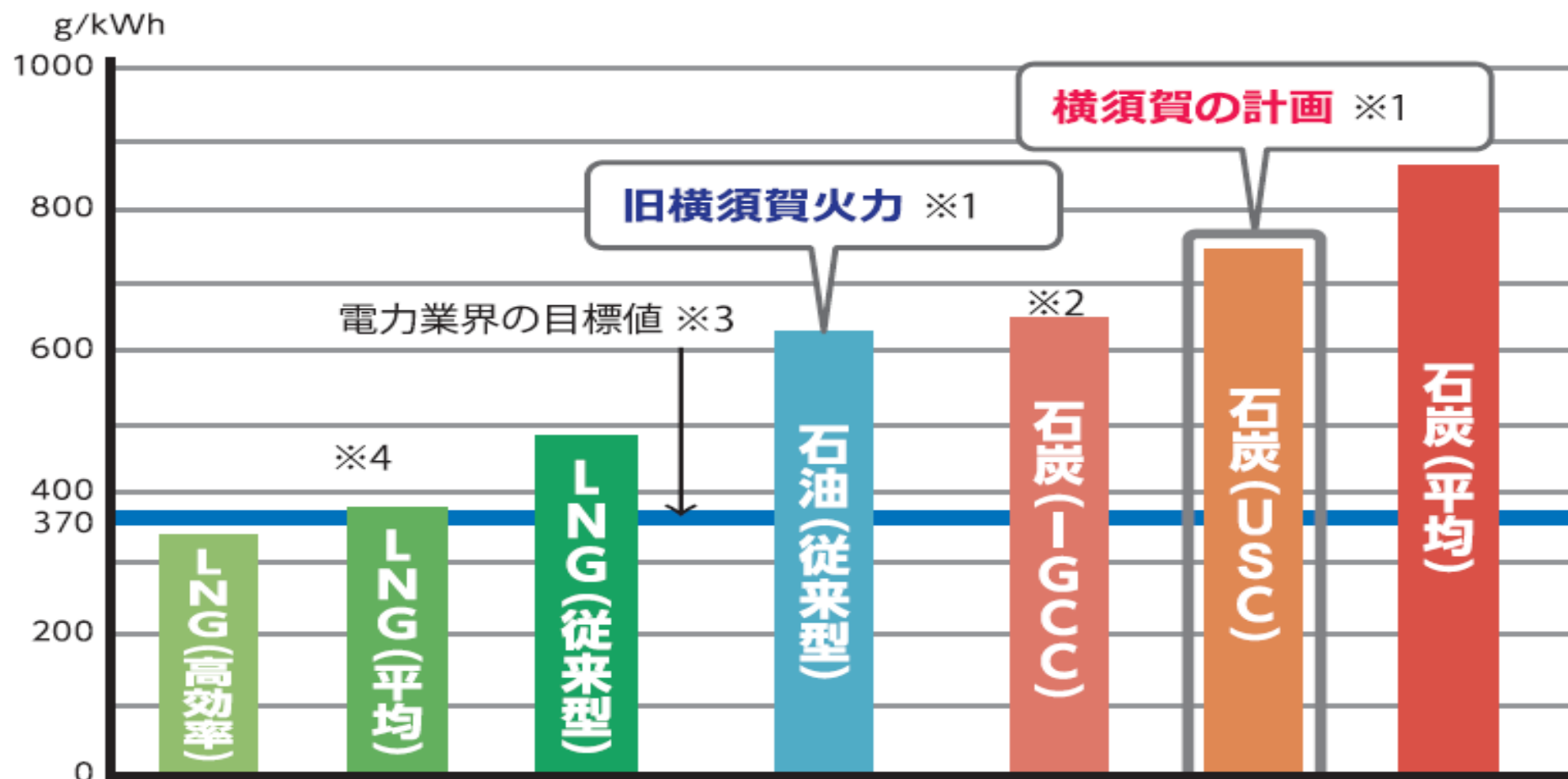
一般的な規制

基準適合型

法律に定められた基準に適合しているか？

- 配慮書において複数案を検討する
- 環境影響が実行可能な範囲内で回避され、又は低減されているものであるか否かについて評価する

火力発電の CO₂ 排出量



- ※1 横須賀の石炭火力発電所の CO₂ 排出係数 749g-CO₂/kWh
旧横須賀火力発電所 (石油) の CO₂ 排出係数 627g-CO₂/kWh (環境影響評価準備書)
- ※2 石炭ガス化複合発電 (IGCC) 広野・勿来の CO₂ 排出係数 652g-CO₂/kWh (環境影響評価準備書)
- ※3 電気事業低炭素社会協議会における 2030 年度の排出係数目標 370g-CO₂/kWh
- ※4 LNG 火力の排出係数：LNG (高効率) はガスタービン複合発電 (GTCC) 340g-CO₂/kWh
資源エネルギー庁 火力発電に係る判断基準ワーキンググループ配布資料より

JERAの環境アセスは 環境アセスと言えるか

- 配慮書における複数案検討
煙突の高さについて： 180mか200mか
- CO₂排出について検討していない
配慮書段階では検討事項にもあげていない
方法書でもガス発電などについて検討せず
神奈川県の審議会で批判をあび、ガス発電を採用しなかつた「理由」を説明。しかし全く具体性のない説明にとどまった。

しゅしゅ提出した石炭とLNGの比較

図 0-2-1 石炭火力と LNG 火力の比較



〈環境影響比較〉

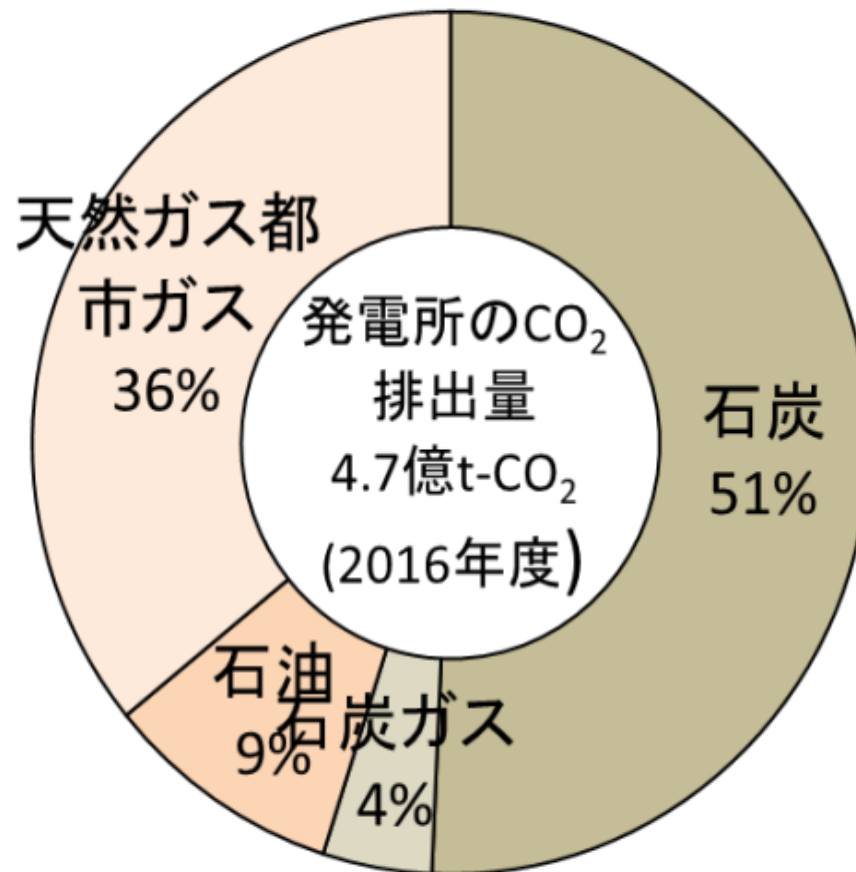
		石炭 (横須賀)	LNG (五井)	LNG (石炭と同出力)	
出力	kW	130万	234万	130万	
利用率	%	85%	90%	90%	
排出量	CO2合計	万t	796	737	410
	燃焼	-CO ₂ /年	726	570	317
	設備・運用※		70	167	93
	窒素酸化物	m ³ _N /h	66	66	37
	硫黄酸化物	m ³ _N /h	58	-	-
	ばいじん	kg/h	22	-	-
他の環境影響		海域への 影響 ベース	海域への 影響 増加	海域への 影響 増加	

※ (一財) 電力中央研究所「日本における発電技術のライフサイクルCO2排出量総合評価 (2016.7)」に基づき、当社試算

平成30年3月26日にJERAが神奈川県環境影響評価審議会に提出した補足資料

大量のCO₂を排出している石炭火力発電

日本全体の温室効果ガス
13億トン(2016年)



横須賀石炭火力
年間 726万トン

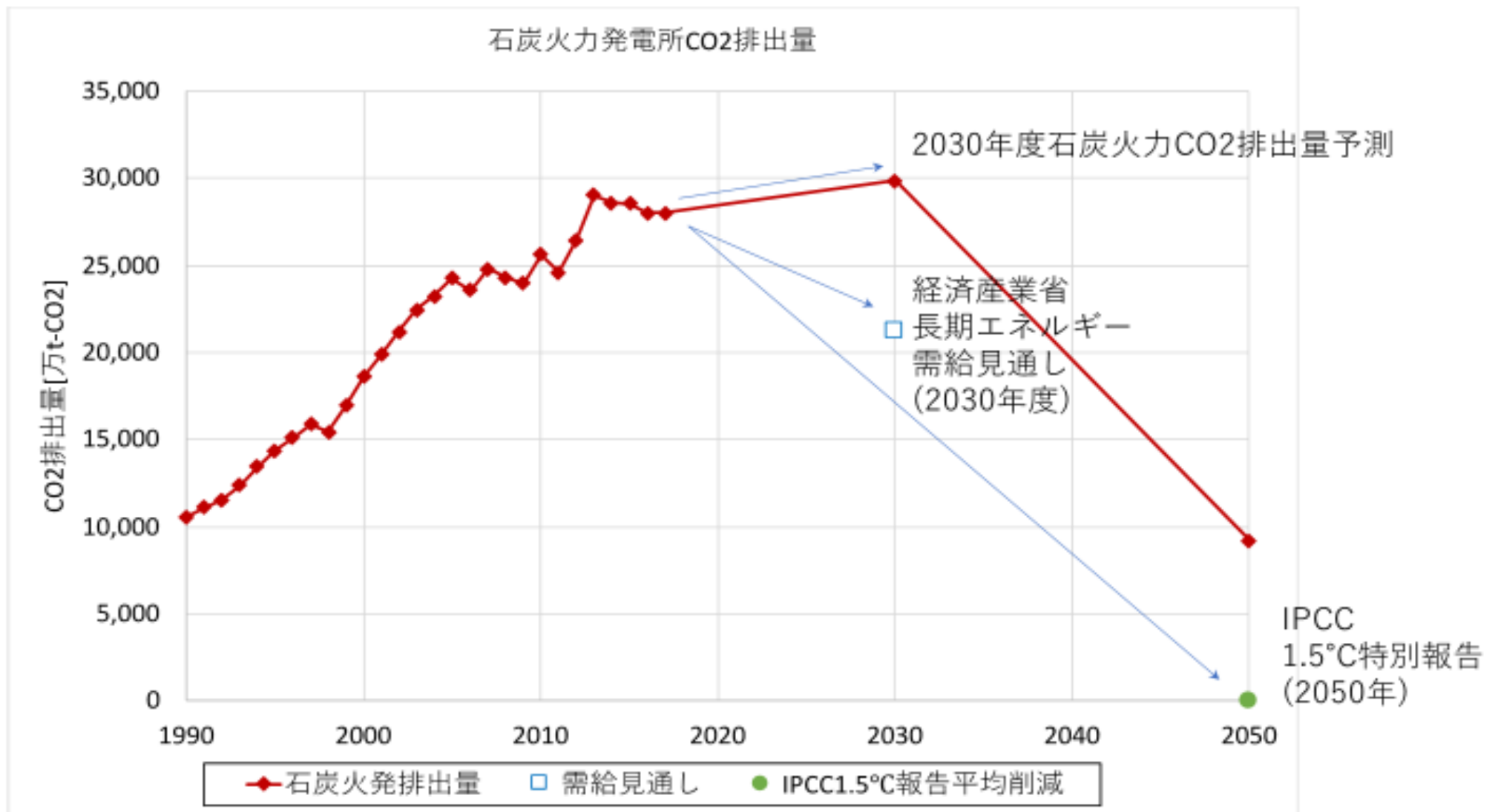
神奈川県内のCO₂
排出量の約10%

日本のCO₂排出量
の約0.64%

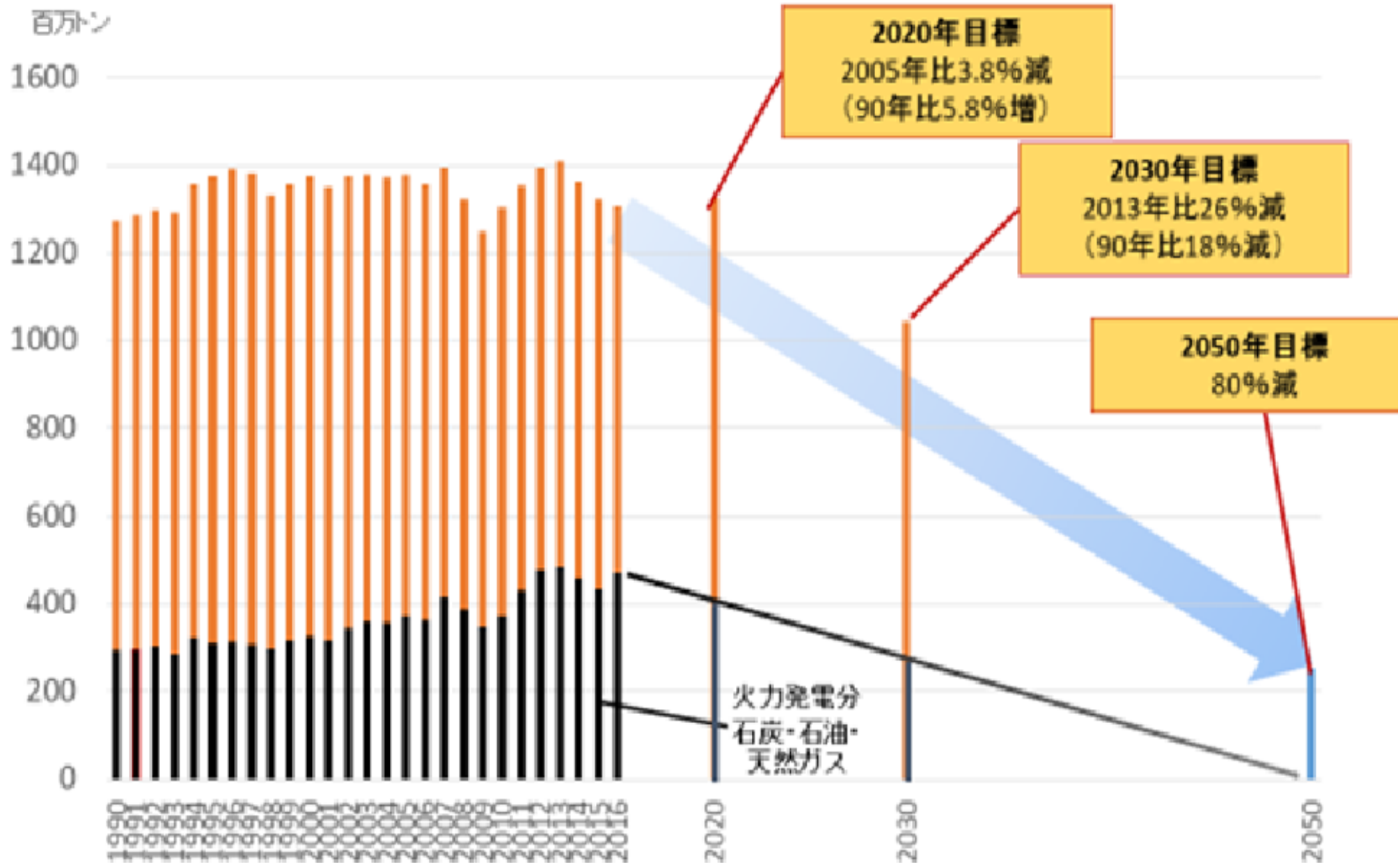
世界のCO₂排出量
の約5000分の1

日本のCO₂全体中、発電部門が39%を占め、発電部門中、石炭火力が55%を占める

石炭火力発電所CO2排出量



石炭火力を新設できる余地はない



アセス手続きを省略できる場合(1)

- 発電所アセス省令第23条第2項第3号
「類似の事例により参考項目に関する環境影響の程度が明らかであること」
⇒ 必要に応じて簡略化された調査又は予測の手法を選定することができる
- 省令の正式名称
- 「発電所の設置又は変更の工事の事業に係る計画段階配慮事項の選定並びに当該計画段階配慮事項に係る調査、予測及び評価の手法に関する指針、環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針並びに環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令」

アセス手続きを省略できる場合(2)

『火力発電所リプレースにかかる環境影響評価手法の合理化に関するガイドライン』

「改善リプレース」の場合にアセスの簡略化を是認

「改善リプレース」とは？

- 「リプレース後に発電所からの温室効果ガス排出量、大気汚染物質排出量、水質汚濁物質排出量及び温排水排出熱量の低減が図られる事業」
- かつ、「対象事業実施区域が既存の発電所の敷地内又は隣接地に限定される等により、土地改変等による環境影響が限定的となり得る事業」

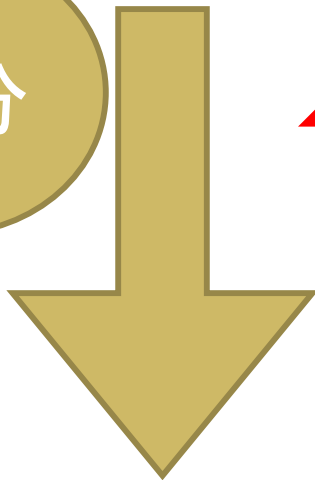
JERAの説明

	既設稼働時 (リプレース前)	新設稼働時 (リプレース後)
大気汚染物質	SO ₂ 494m ³ /h NO _x 482m ³ /h ばいじん 147kg/h	SO ₂ 58m ³ /h NO _x 66m ³ /h ばいじん 22kg/h
温排水	640°Cm ³ /s	399°Cm ³ /s
温室効果ガス	1066万トン／年	726万トン／年

なぜ国を訴えるのか？

行政

処分



不服

裁判所

「行政の処分は法律に違反しているので取り消せ」

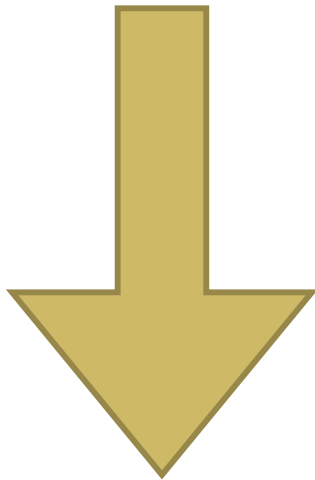
行政訴訟

公権力の行使に対する不服⇒
裁判所の救済を求める訴訟

国民

現時点で何が争われているか？

経産大臣



JERA

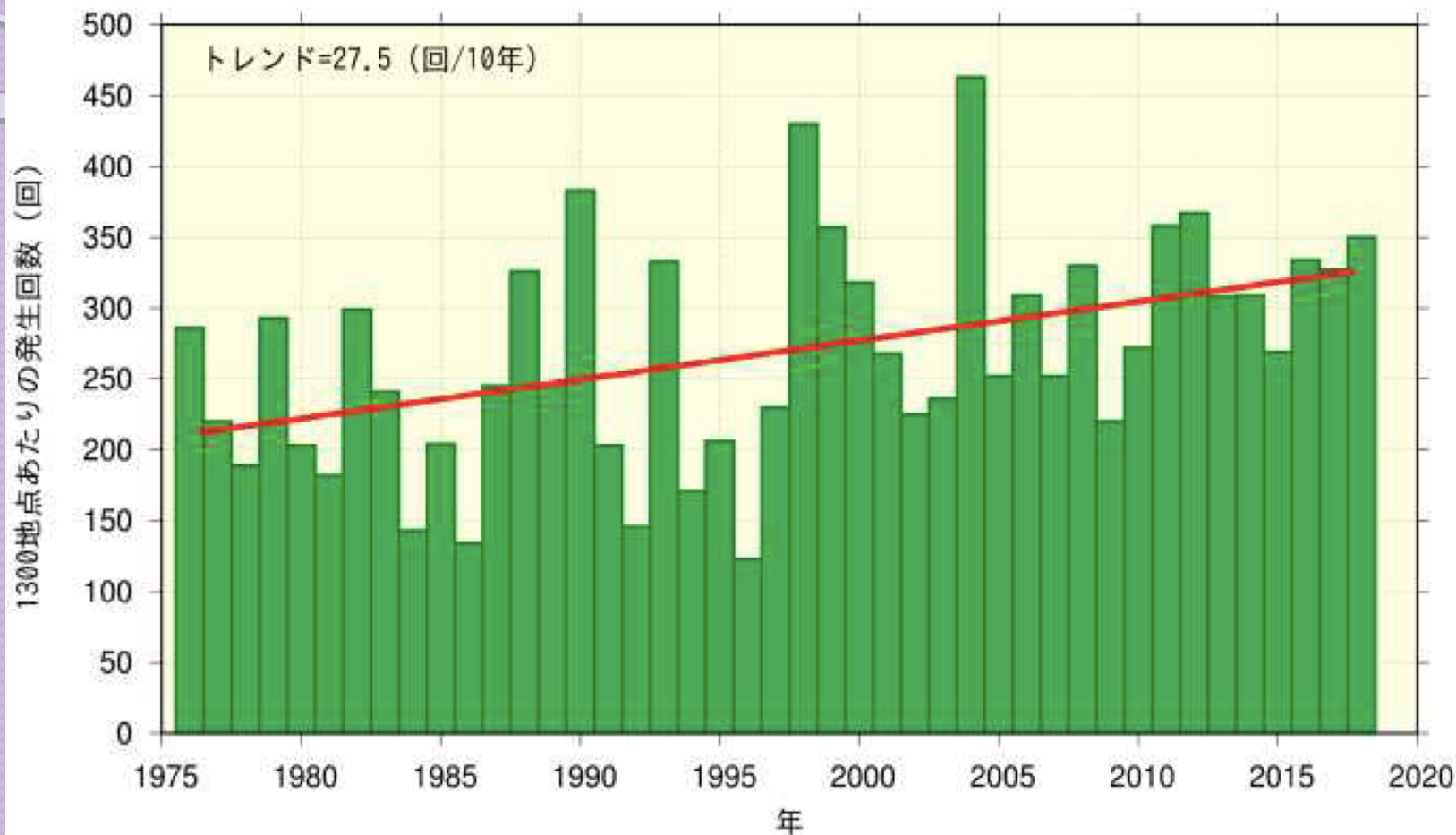
原告適格
= 訴える資格

法律が保護している？

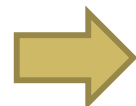
原告

すでに起きている温暖化被害(1)

[アメダス] 1時間降水量50mm以上の年間発生回数



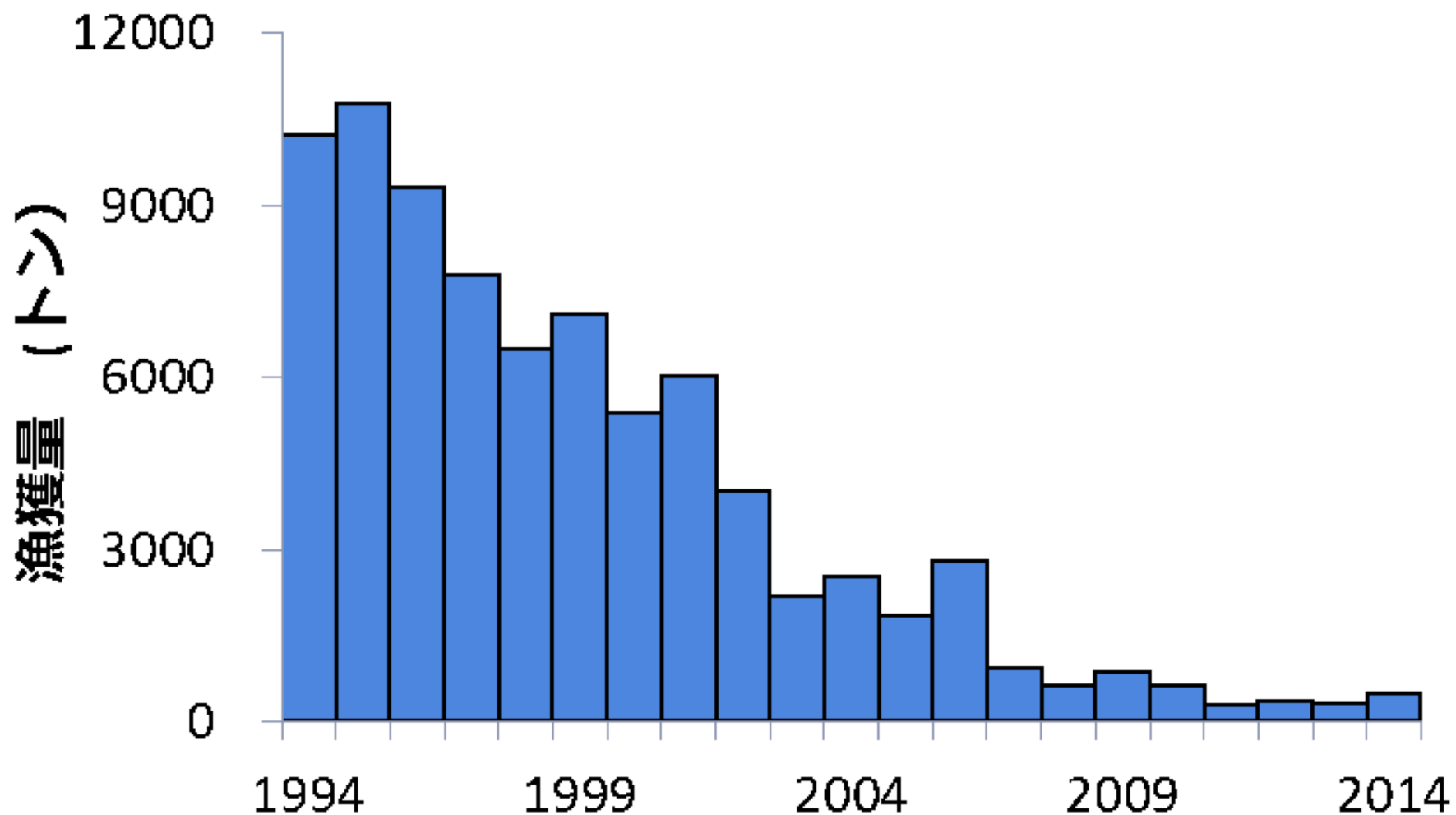
1976～85年 平均226回



2009～18年 平均311回

気象庁「気候変動監視レポート2018」より

すでに起きている温暖化被害(2)

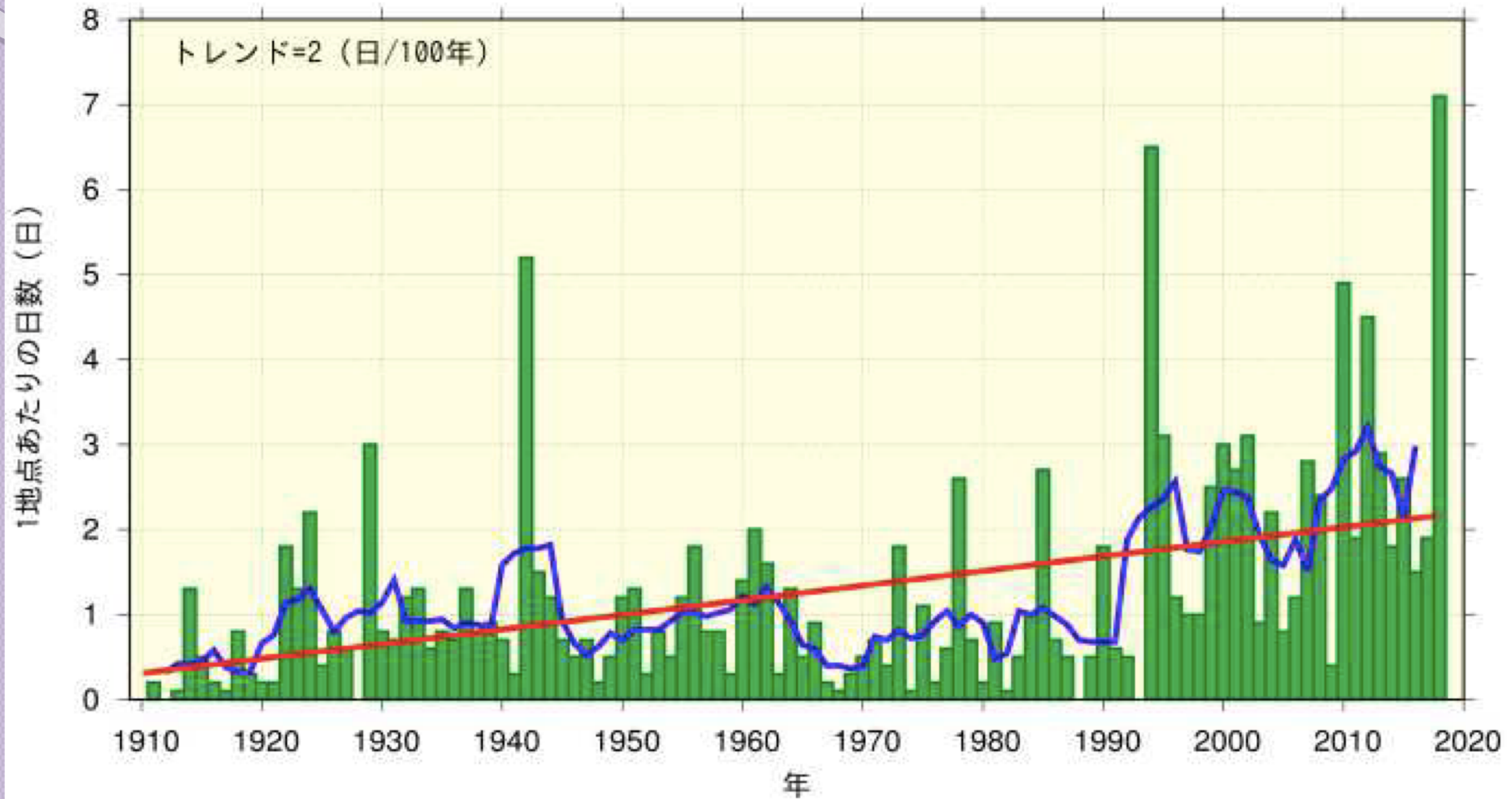


日本海沿岸域(秋田県～山口県)における8～11月のスルメイカ漁獲量

気象庁「気候変動監視レポート2018」より

すでに起きている温暖化被害(3)

[13地点平均] 日最高気温35℃以上の年間日数 (猛暑日)



気象庁「気候変動監視レポート2018」より

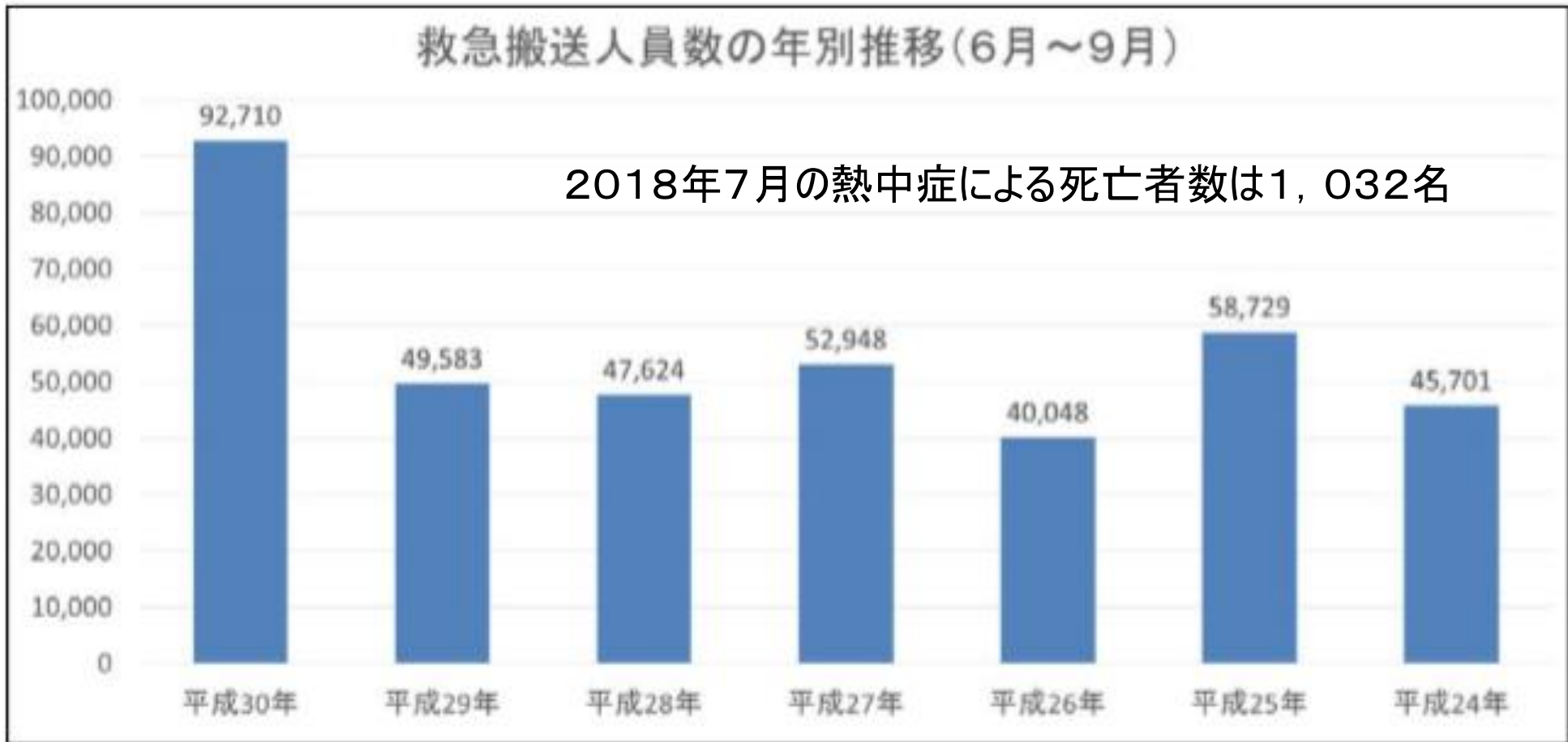
すでに起きている温暖化被害(4)

最近の主な気象災害

- 今年には台風15号、19号、その後の豪雨(強風、長期停電、浸水)。関東、甲信越、東北など広範囲に被害。
- 昨年は西日本を中心に、河川の氾濫や洪水、土砂災害など。死者263人、行方不明者8人、負傷者484人、住家の全壊6783棟、半壊1万1346棟、一部破損4362棟、床上浸水6982棟、床下浸水2万1637棟
- 一昨年は北九州豪雨、住宅被害は、福岡県と大分県の合計で、全壊336棟、半壊1096棟、一部破損44棟、床上浸水180棟、床下浸水1481棟

すでに起きている温暖化被害(5)

熱中症患者の救急搬送人員数の年別推移



※平成26年までは5月分の調査を行っていないため、年別推移のグラフは6~9月で作成した。

確定通知が取り消されたら？

環境アセスの「確定通知」が建設工事の前提になっている

(「工事計画」の内容や運転条件が環境アセスの評価書に従っていること、という要件がある)



「確定通知」の取り消しによって、建設工事や運転の法的前提が失われ、違法になる

訴訟の今後の方向性

- 発電所稼働によって甚大な被害が生じることは明らか
- 処分性も原告適格もあることは明らか
- 早く本案の認否反論をすべき